

令和2年度(2020年度)事業計画

事業概要

当法人は、昭和57年(1982年)に「青少年の家キャンピング指月林」を開設し、繊維染色研究所を併設したこの事業場において、青少年を対象に、道徳心のある情操豊かな人間性を養う研修・体験活動の場を提供するとともに、繊維工業、染料工業に寄与するため、染色の科学的解明と研究成果の文献化を行うという事業活動を継続しております。

研修・体験等事業においては、後述する六つの個別プログラムを設定し、各プログラムの活動を通じて、青少年が、社会生活を営む上での普遍的な規範を自ら学び取ることを目指しています。

染色、染料及び色彩に関する研究等事業は、繊維染色研究所に於ける研究を蓄積するとともに染料植物園での染料植物の育成、保存、活用を目標としており、本年度も目標に沿った活動を行います。

収益事業におきましては、公益目的事業に資するため、という限定目標のもと、不動産賃貸管理事業及び不動産賃貸事業を継続いたします。

公益目的事業の計画概要

1. 淳風美俗育成事業

キャンピング指月林敷地内にあるキャンプ場、研修棟、グラウンドや染料植物園（研修・体験用及び学術研究用）を活用し、青少年にとって自主的、主体的な活動体験となることに主眼を置いて、各プログラム活動を実行いたします。

来場者の構成変化に対応するため、施設の安全性、利便性の向上にも引き続き取り組みます。前年度は、空調・照明等の設備を新設・更新すると共に、建物の修繕を行いました。本年度は、従来から要望のあった雲梯をグラウンドに新設し、既設の鉄棒と併せてスポーツ研修の充実を図ります。

実りのある活動内容を維持するため、研修体験者総数は1,500人を想定しております。

個別プログラムの活動計画は、次のとおりです。

① キャンピング研修

月平均3日以上の実施を見込みます。

「自然の中での集団による活動・共同生活」を意識してもらい、事前準備と後片付けの徹底、新聞や木片を使っての火起こし、薪での野外料理、テント宿泊を通じて、グループ内での協力は元より、天候の変化、道具器具の活用、危険回避などにも意識が向くような指導に努めます。

② 瞑想研修

来場者全員の参加を得るように進めます。

複数来場の場合、この時間を楽しみにするという青少年も増えてきました。初来場者には趣旨の説明とともに経験者の感想もお伝えし、また、実施前の講話にも工夫を凝らして当日の主目的に応じた内容とすることにより、体験中の精神集中を高めるとともに、瞑想の習慣化を働きかけます。

③ 茶道研修

本年度も10回の開催を計画します。

数年前より茶道の経験のない方にも関心や興味を持ってもらえるよう内容を工夫し働きかけてきました。「お茶に親しみ作法を学ぶ」という目的を踏まえ、実施の都度、対象者の年齢や経験に応じて、作法の意味するところ、茶道の精神、歴史など重点を決めて行う方法を継続します。

④ 作務研修

体験直後に「来たときよりも美しくなった」、「次の人のためにきれいにした」という達成感を感じてもらうことが成果と考え、参加者の人員構成などを踏まえて実施いたします。前に来た人たちが自分たちのためにどうしてくれたか、後に来る人たちのため自分たちに何ができるか、という連鎖を強く意識した内容となるよう努め、来場者全員の参加を求めます。

⑤ 草木染研修

国立青少年教育振興機構の調査結果の一項には、「自然体験やお手伝い、読書をすることが多い子どもほど、生活スキルが高い傾向が見られる」という表現があります。「年代が若くなるほど、子どもの頃の自然体験や遊びが減ってきている」ということも言われています。この研修では、草木染の染材として植栽している染料植物の見学、摘み取り、準備、染色を一貫して行い、できるだけ季節に応じた染材を選ぶことにより印象に残る自然体験となることを目指します。

12回の開催を計画しております。

⑥ スポーツ研修

少年期の運動能力向上には、9～12歳が最も大切で、この間に身に付けた能力は一生忘れず、また、その前後は、それぞれにふさわしい運動があるという理論を学習しながら、長期的な視線で取り組みます。一方で、運動する場所や機会に恵まれない団体も少なからずあるという当面の課題も無視できないものがあります。そのニーズに応えるため、新設予定の雲梯を活用しながら活動を進めます。

12回以上の開催を目指します。

2. 学術研究事業

この事業では、例年通り繊維染色に関する研究と染料植物園での染料植物の植栽を行います。

繊維染色に関する研究では、年3回開催する繊維染色委員会で、研究テーマや研究内容の協議、意見交換等を行って進めており、その研究成果を公表する「論文集葆光」は、第32号の発刊を計画しています。

染料植物園では、天然染色の材料となる樹木の維持管理、草花系及び野菜・根菜系植物の植栽と収穫及び収穫後の染材（各植物の染色に使用する部分）の保存を着実に進めてまいります。

（1）繊維染色研究に関する研究

ー 本年度のテーマ ー

- ① セルロース系繊維のログウッド染色におよぼす繊維内部環境の影響
- ② 現代における和服の色感覚について
- ③ 「楊梅^{ヤマモモ}」の色素成分と染色性
- ④ 「ハイノキ」の葉を媒染剤とする染色の研究

ー 各テーマの概要 ー

- ① 前年は、最近のキーワードであるサステナブル（Sustainable）に配慮して、再生繊維であるジアセテート繊維の天然染料による染色について検討した。その結果、ジアセテート繊維はログウッド抽出色素により染色および媒染が可能であり、様々な色目に染色できることを報告したが、ジアセテートに染色可能な天然染料の種類は限られるようである。現在、使用されている天然染料は通常の天然繊維には程度の違いはあるものの染色は可能であるにもかかわらず、ジアセテート繊維の場合には全く染着しない染料が存在する理由について、今のところ明らかではない。そこで、本年は構成分子骨格がセルロース分子であるが繊維内部環境が異なる綿、レーヨン、ジアセテート、トリアセテートを取り上げ、昨年使用

したログウッドなどの数種の天然染料の染着挙動を求め比較検討することから、それぞれの染料の染着特性と繊維内部環境との関係について考察を試みる。

- ② 「流行色は、同時代を生きる人びとが共有している気分を反映しています。それと同時に、こういう世の中になんて変わってほしいという願いも託されています」と日本流行色協会の大野礼子氏は説明している。現代はファッションの流行色だけでなく、着物の流行色も和装業界にはあると推察できる。雑誌「美しいキモノ」(2019年冬号、11月20日発売)には、ライフスタイルに合わせた着物を提案しており、目次には“3つのキーワードで見る 今年のトレンド「紬」”と紹介し、ファッション雑誌と同じように、着物の雑誌も流行を意識した紙面が作られている。そこで、現代の和服の色感覚を雑誌に掲載されている着物の流行色とファッションの流行色との関係性から模索する。
- ③ 温暖な気候に育つ常緑高木で雌雄異株の「楊梅^{ヤマモモ}」は、古くから樹皮(楊梅皮)を用い収れん効能を期した薬用や、黄～褐色に染め出す染材に用いられてきた。その色素成分はフラボノイド系のミリシトリンで、タンニンも共存していることが既に周知されている。このように「楊梅」の樹皮を用いた染色性については多くの研究があるが、その実についての報告はあまり見当たらない。そこで、本研究では指月林に育つ「楊梅」から実を採取、色素を抽出しその成分を薄層クロマトグラフィーから判別を行っていく。手法として、安定的な色素抽出の方法を得るため条件を変えながら抽出液の変化を紫外-可視吸収スペクトルの測定から追跡し、布への染色性と色調については分光測色によるK/S-λ曲線から検討を行う。なお、実の赤紫の色目から、この色素はアントシアニンと推測でき、この色素に関しては、これまでに色素の抽出方法や染色性、堅牢度など多くの研究データがあるので、それらを参考に実験を進める。
- ④ 植物染料で染める際の媒染には、ハイノキの仲間たちの葉がよく使用されてきた。紫根染めでは、一般に樺の葉を焼いた灰で灰汁をとり、染める前の被染物を浸けて媒染する先媒染が行われるが、南部むらさきの名で知られた岩手県の南部町あたりは樺がなかったため、同種のニシゴリの葉を焼いた灰が使われたとの報告がある。灰を使うから「ハイノキ」という和名が使われたと推察されるが、前出の「南部むらさき」にも、そのような指摘が記されている。ハイノキの葉には、タンニンと共にアルミニウムイオンが含まれていることが、簡易分析により明らかにしているが、おそらく両成分がタンニン酸アルミニウムの構造を形成して葉中に含まれていると推察される。そこで、ブータン、ネパール、インドネシアなどで採取されたハイノキ属の葉や国産のハイノキの葉を用いて種々な方法で媒染を行い、各種の茜、コチニール、および紫根による染色に反映する媒染効果を比較研究する。

(2) 染料植物園

染料植物園は、樹木エリアと畑エリアに区分しています。それぞれのエリアで天然染料となる染材を採取して草木染研修や学術研究で活用します。樹木エリアでは、染材となる樹木を充実させるため、管理計画に従って剪定、伐採、植栽、補植等を適切に実施します。畑エリアでは、季節に応じた草花系、根菜系の染料植物を植栽し、葉、花卉、根などを染材として保存します。また、時期によっては根菜系などの収穫体験を食育にも活用します。

Ⅱ．収益事業の計画概要

公益目的事業の事業規模に即した収入を確保いたします。

1. 不動産賃貸管理事業

管理物件数の見込	事業用建物	4棟
----------	-------	----

2. 不動産賃貸事業

賃貸物件数の見込	事業用土地	2件
----------	-------	----

以 上